

令和2年10月13日 三重県少子化対策推進県民会議
杉浦委員 提出資料

みえ子どもスマイルレポート ～令和元年度の総括～ 概要

1 評価のプロセス

- (1) 令和元年度の少子化対策の取組について、重点的な取組を中心に、総合目標や重点目標の達成度合いの推移等をふまえながら、県が庁内で総合的に評価を実施。
- (2) 県が庁内で行った評価(案)をもとに、5月下旬に三重県少子化対策推進県民会議・計画推進部会の委員へ意見照会。
※新型コロナウイルス感染症の発生状況をふまえ、部会の開催を見合わせ、文書による意見照会を実施。
- (3) 県がみえ子どもスマイルレポートを三重県議会(6月22日、医療保健子ども福祉病院常任委員会)に報告。

2 重点的な取組の進展度

(1) 判断基準

重点目標の達成率(重点目標が複数ある場合は単純平均)の結果により、4段階に区分したうえで、モニタリング指標の動向や取組実績等の情報をもとに、総合的に進展度を判断。

区 分	重点目標の達成率(達成状況)
 進んだ	100% (1.00)
 ある程度進んだ	85%以上100%未満 (0.85以上1.00未満)
 あまり進まなかった	70%以上85%未満 (0.7以上0.85未満)
 進まなかった	70%未満 (0.7未満)

(2) 進展度

14の重点的な取組の進展度について、重点目標の達成度合いや取組実績等により総合的に4段階で判断したところ、 (進んだ) と評価した取組は4項目、 (ある程度進んだ) は8項目で、 (あまり進まなかった) と評価した取組は「保育・放課後児童対策などの子育て家庭の支援」「発達支援が必要な子どもへの対応」の2項目でした。なお、 (進まなかった) は該当ありませんでした。

重点的な取組	進展度				
	H27	H28	H29	H30	R1
1 ライフプラン教育の推進	😊	😊	😊	😊	😊 (ある程度進んだ)
2 若者の雇用対策	😊	😊	😊	😊	😊 (ある程度進んだ)
3 出逢いの支援	😊	😊	😊	😊	😊 (進んだ)
4 不妊に悩む家族への支援	😊	😊	😊	😊	😊 (ある程度進んだ)
5 切れ目のない妊産婦・乳幼児ケアの充実	😊	😊	😊	😊	😊 (ある程度進んだ)
6 周産期医療体制の充実と在宅での療育・療養支援	😊	😊	😊	😊	😊 (ある程度進んだ)
7 保育・放課後児童対策などの子育て家庭の支援	😊	😞	😞	😞	😞 (あまり進まなかった)
8 男性の育児参画の推進	😊	😊	😊	😞	😊 (ある程度進んだ)
9 子育て期女性の就労に関する支援	😊	😊	😊	😊	😊 (進んだ)
10 企業による仕事と子育てとの両立に向けた取組の支援	😊	😊	😊	😊	😊 (進んだ)
11 子どもの貧困対策 (28年度から目標を設定)	—	😊	😊	😊	😊 (ある程度進んだ)
12 児童虐待の防止	😊	😊	😞	😊	😊 (進んだ)
13 社会的養護の推進～里親委託と施設の小規模化等の推進～	😊	😊	😊	😊	😊 (ある程度進んだ)
14 発達支援が必要な子どもへの対応	😊	😊	😊	😞	😞 (あまり進まなかった)

3 総合目標

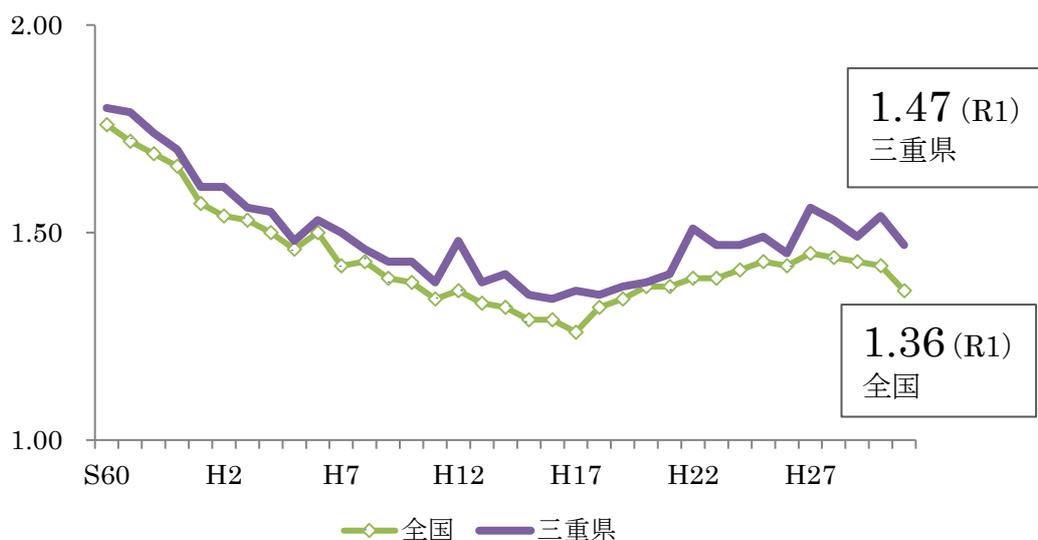
総合目標	現状値	28年度実績	29年度実績	30年度実績	元年度実績	目標値
合計特殊出生率	1.45 (H26年)	1.53 (H28年)	1.49 (H29年)	1.54 (H30年)	1.47 (R1年)	1.8台 (おおむね10年後)
「地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている」と感じる県民の割合	55.6%	52.1%	52.2%	51.5%	51.2%	67.0% (令和6年度)

(1) 合計特殊出生率

本県の合計特殊出生率は1.47(令和元(2019)年)で、前年より0.07ポイント減少しました。全国は1.36で、本県の合計特殊出生率は全国より高いものの、「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」策定時からおおむね10年後の目標である1.8台(県民の皆さんの結婚や出産の希望がかなったと仮定した場合に想定される合計特殊出生率の水準「希望出生率」とはかい離があります。

(合計特殊出生率 全国順位 元年：16位、30年：19位、29年：29位)

合計特殊出生率の推移

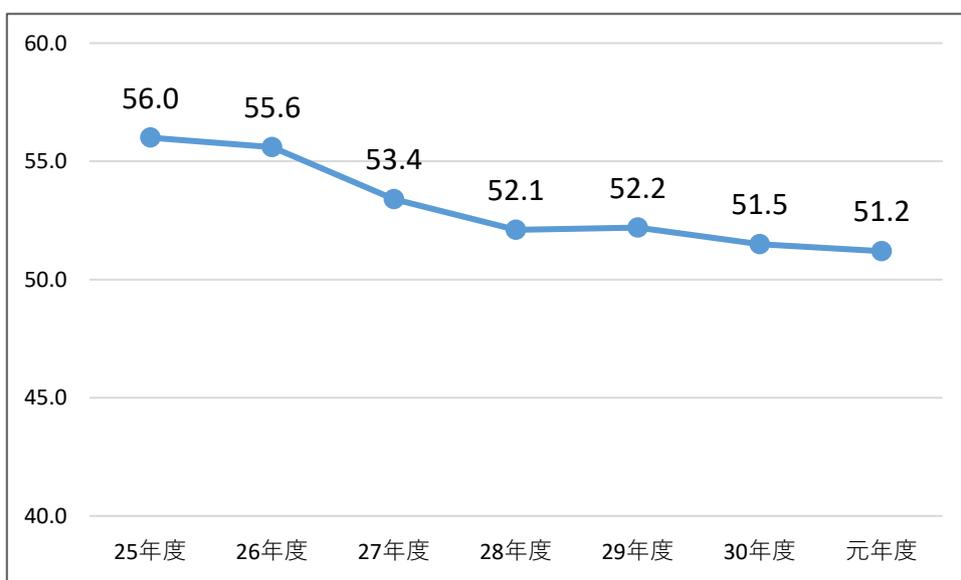


(2) 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合

第9回みえ県民意識調査（令和元（2019）年度）によると「地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合」は51.2%で、前年度実績51.5%より0.3ポイント減少しました。「希望がかなうみえ 子どもスマイルプラン」の策定年度（平成26（2014）年度）よりも減少しているとともに、同プランにおける令和6（2024）年度の目標値（67.0%）とは15.8ポイントの差となっています。

地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合の推移

【みえ県民意識調査】



※「感じる」「どちらかといえば感じる」割合の合計

4 重点的な取組の全体的な進捗状況からみた令和元年度の総括

令和元年度の県の少子化対策については、14の重点的な取組のうち、前年度から引き続き2項目の取組が「あまり進まなかった」であったものの、その他の12項目の進展度が「進んだ」「ある程度進んだ」であり、取組は一定進んだと考えられます。平成30年度に「あまり進まなかった」3項目の取組のうち、「男性の育児参画の推進」について、男性の育児休業取得率は目標に達しなかったものの、大きく上昇し過去最高となり、また「みえのイクボス同盟」への加盟団体数が大幅に増え、全国1位の加盟数とすることができました。

一方、2つの総合目標について、合計特殊出生率は、全国順位は上昇傾向にあるものの前年から減少するとともに、「地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じる県民の割合」は減少傾向が続き、少子化の進行の抑制や県民実感の上昇はかきませんでした。

第一期スマイルプランの5年間を通じては、重点的な取組のうち「ライフプラン教育の推進」および「出逢いの支援」について、集中的に取り組んだ結果、ライフプラン教育を実施している市町や県立高等学校が大きく増え、また、婚活イベント等を実施する民間団体が増加するとともに、市町の取組も徐々に進むなど、一定の成果が得られました。このため、これらの取組について、第二期スマイルプランでは重点的な取組には位置づけませんが、内容をさらに充実させ、より長期的な視野で取り組み、効果を確実に定着させるよう進めていきます。一方で、医療技術の進歩等を背景として、医療的ケアが必要な子どもが増えてきていることをふまえ、第二期スマイルプランでは新たに医療的ケアが必要な子どもへの支援を重点的な取組に位置づけ、集中的に取り組んでいきます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、出会いの機会の減少や不妊治療の延期・中断、経済状況の悪化など、結婚や妊娠・出産、子育ての当事者は大きな影響を受けており、結婚の希望がかない、安心して子どもを生み育てられる環境整備の重要性が高まっています。さらに、子どもや子育て等にかかる各施策を実施するにあたっては、新しい生活様式や価値観の変化への対応が求められています。

そのような中、第二期スマイルプランで掲げた、「縁を育む、縁で支える」という基本的な考え方は、より重要な視点になってくると考えます。県では、人と人のつながりを大切にし、企業や関係団体、市町などさまざまな主体と協創して、県民の皆さんの希望がかなうよう取組を進めていきます。